
今は見かけなくなった天使のお話

AKiRA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今は見かけなくなった天使のお話

【Nコード】

N2977L

【作者名】

A K i R A

【あらすじ】

最近、天使を見かける事ってなくなりましたよね。

でも、それは私たちが気づいていないだけで、案外近くに居るかもしれないよ。

(前書き)

※これは数学の授業中に生まれたお話です。

それは、あり得ない光景だった。

極普通の大学に通っている一人暮らしの僕のところへ、背中に明らかに偽物の羽を背負った一人の少女が転がり込んできた。

「君……だれ??」

僕が問うと、少女は自身ありげな笑みを浮かべて

「天使ですが……何か???」
と答えた。

「だって君、その羽偽物だよね? お母さんとお父さんはど」だから天使ですって」

少女は僕の言葉があと一文字で終わるのを待てなかったのか、さえぎって話し始めた。

「まあ、信じてもらえないのもわかります。私、こんな幼いし。それに、私達天使は人間達のせいで地中深くに追いやられ、飛ぶ必要が無くなったので羽が退化してしまっただけです。限りなく人間に近くなってしまうた私達は姿を消す事も難しくなり、人間に養ってもらおうという大っ大っ大決断をしたのです。」
へえ……。

よくわからないけど……それじゃあ、あまりにも人間の損じゃん。

「ど、どうしてですか??」

少女はめっちゃくちゃ驚いたような顔になった。

「だって、収入は一人分なのに支出は二人分だろ? 生活苦しくない?」

「ああ、その点はあ……だいじょぶです。」

至極頼りない笑顔だった。

本当の本当に大丈夫なのだろうか。

「私はまだ分かりませんが、天使には自然の力が備わっているらしいのです。だから、水の妖精を従える天使は水道代を浮かせる事が

出来ますし、火の妖精に従える天使はガス代を浮かせる事が出来る
って訳です。」

なるほど。

「で、キミは何の妖精が使えるの？」

「知らない。」

即答だった。

僕が言い終わってから少女が答えるまで、その差わずか0, 01秒。
「でも、でも、お母さんが水で、お父さんが電気っていう、違う種
族とのハーフだから、私は幸運の天使と言われる幻の天使か、不幸
の天使と呼ばれる悪魔か、どっちかです。因みに確率的には不幸の
方が多いって……じゃなくてえ！」

少女は必死でフォローになっっていないフォローをする。

それから、ぺこりと頭を下げる。

「おおお願いします！住まわせて下さい！」

ここまでお願いされて断れる訳が無い。

「わかった。いいよ。」

僕が言うと、少女はパァツと花のような――（因みに例えるとチュ
リップみたいな）笑顔になって、

「ああありがとうございます！」

と連呼した。

暫く踊り狂っていた少女だったが、不意に僕に向き直って一言

「契約代わりに名前をつけて下さい」

と言った。

「じゃあ、キミの名前は天璃^{あめり}。」

すると、天璃はさっきのチュールリップみたいな笑顔になった。

「わあ。ありがとうございます！」

僕もつられて、笑った。

（後書き）

なんだか天使の話が書きたくなったので、一遍書いてみました。
続きはありません。短編なので。

また、機会があつたら天璃のその後や、お母さんとお父さんの恋の話なんかも書いてみたいと思っています。

今後とも是非宜しく御願ひしたいところです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2977l/>

今は見かけなくなった天使のお話

2011年1月8日21時18分発行